白鷗足利 初の女王

稽古で自信、接戦制す

主要県大会3冠

新たな歴史をつくった。女子団体の白鷗大足利は、息詰まる熱戦の連続となった決勝を制して初のインターハイ切符を獲得。副将の小松ななみ主将は「とてもうれしい」と破顔した。

8年ぶりの優勝を狙う作新学院との決勝は、次鋒戦を落として0―1。先手を取られた状況でも、後続が粘り強かった。中堅屋代澪は「自分が勝って取り戻して、後ろにつなぐ」と得意の小手を決め、流れを渡さなかった。

そして勝ち数、本数とも1―1で並んだ大将戦。2年浅利紗帆は「自分で全てが決まる。前の4人の分も背負って戦う」と奮い立った。

間合いが変わり苦手とする上段の構えの相手にも一歩も引かず、先に小手で一本。「安心しかけたが、切り替えた」とすかさず面でもう一本奪い、勝負を決めた。

今年は1月の新人大会、5月の県総体に続き、主要県大会をいずれも初優勝と頭角を現している。木村悠生監督は「自分が止めないとやめないくらい、ずっと稽古している。自信を持てる稽古を積んできた」と強さの要因を挙げる。

インターハイでも狙うは「全国制覇」と小松は強気に語る。初の大舞台でも躍動し「白鷗大足利」の名をとどろかせる。

（鈴木航）

ハイライト

女子団体決勝　次鋒戦でメンを狙う白鷗足利の高野（右）＝ユウケイ武道館、鈴木航撮影

高校総体 県予選

佐野日大 盤石2連覇

剣道団体

剣道の全国高校総体（インターハイ）県予選は19日、宇都宮市のユウケイ武道館で男女団体が行われ、男子は佐野日大が2年連続10度目、女子は白鷗大足利が初優勝を果たした。

男子の佐野日大は初戦から快勝を重ね、決勝は文星芸大付に4―0で勝利した。女子の白鷗大足利は接戦で勝ち進み、決勝は作新学院に2―1で競り勝った。男女の優勝校は8月3日から奈良市で行われる全国大会に出場する。

【男子】▽団体準々決勝　佐野日大5―0真岡、作新2―2（本数勝ち）鹿沼、白鷗足利3―0栃木、文星付5―0石橋▽準決勝　佐野日大5―0作新、文星付1―1（本数勝ち）白鷗足利▽決勝　佐野日大4―0文星付　○田中　ドコー　高村　―　小松　―　深石　○大山　メメー　○川崎　メメーメ　○大河原　メコー　平石　添田　佐藤

【女子】▽団体準々決勝　白鷗足利1―0栃女、宇南2―2（本数勝ち）小山、作新1―1（代表勝ち）鹿沼、文星女4―0宇北▽準決勝　白鷗足利3―0宇南、作新2―2（代表勝ち）文星女▽決勝　白鷗足利2―1作新　中丸　―　蒲生　高野　―メ　新　○屋代　コー　北嶋　○小松　―　伊藤　○利　―　刀川　コメー　本澤

関東王者 隙ない強さ

5日前に関東の頂点に立った男子団体の佐野日大は、今大会も盤石の戦いぶり。2年連続のインターハイ行きを決めて優勝候補筆頭のプレッシャーから解放され、大河原靖太主将は「うれしさと、安心した気持ち」と頬を緩めた。

「みんな最初から動きが良かった。一人一人がやるべきことをやれた」と大河原。一瞬の隙を見逃さず、正確に次々と一本を奪う。あっという間に勝負を決め、ライバルたちに付け入る隙を与えなかった。

決勝まで5戦、個人単位で見れば計25回の対戦を24勝1分け。奪った本数は47、逆に奪われた本数はわずか2と、その圧倒的な強さは数字にも表れた。

16強止まりだった前回のインターハイも大将として出場した大河原は「もっと一つ一つの動きをレベルアップすること」と見据える。全国の頂点を目指す選手たちにとって、県のタイトルはあくまで通過点だ。

（鈴木航）

ロッカールーム

男子団体決勝　副将戦でメンを狙う佐野日大の川崎（右）

文星芸大付・佐藤旬（大将。男子団体で準優勝）「インターハイに行きたかった。（決勝で敗れた）佐野日大はレベルが上だが、（2月の）新人大会では善戦していたので、その分悔しい」

作新学院・刀川彩乃主将（女子団体で準優勝）「このチームになってこれまで3位止まりだったが、決勝まで進めて良かった。白鷗大足利に団結力では負けていないと思っていたが、力の差が出てしまった」

女子団体優勝の白鷗足利

男子団体優勝の佐野日大

記事には載らなかった写真もWEBで販売中！
下野新聞 フォトサービス
とっておきの一枚をお届けします
※プライバシーや肖像権の関係上、販売は写っているご本人または親族に限らせていただきます。